

令和5年度 伊南福祉会本部事業報告

(1) 法人全体の経営状況

令和5年度は、前年度のコロナ禍の利用率低下と諸物価・人件費等のコスト増によるマイナス収支からの脱却を目指したものの、福祉事業を取り巻く経営環境は厳しく、法人全体として苦しい運営を余儀なくされた1年間でした。

順天寮、訪問看護ステーションでは利用率が増加し、事業収益は5%を超える伸びとなりましたが、観成園、フラワーハイツでは稼働率の回復が遅れ、0.7%の伸びとなったため、法人全体の収入合計は1.7%増、16億75百万円にとどまりました。

法人全体の支出合計は、介護職員処遇改善に対応して人件費が2.1%の増となったことをはじめ、物価の高止まり等もあって、1.8%増、16億95百万円となり、資金収支差額は19百万円のマイナスという結果になりました。

このため、次期は経営コンサルタントによる分析と指導をもとに、収支状況の改善に向けた課題と目標指標を明確にして取り組みを行ってまいります。

- ① 利用率を回復させるための、内部の体制強化と外部への働きかけ
- ② 介護報酬改定の強化項目を最大限に生かすための事業シフト
- ③ 人材確保のため職員への処遇改善を実施しつつも人件費総額を適正な水準に納め、離職率を抑えて育成につなげること

(2) 本部運営

法人全体の課題と目標を明確にして各施設の事業を進めるよう指導するとともに、以下の法人全体の取り組みを行いました。事業活動支出としては、本部職員の人件費及び業務委託費で、総額2千万円でした。

① 経営分析と対策の実施

毎月の法人経営会議で、経営コンサルタントの助言を得て、経営指標、経営課題や対応策を確認している。

② 持続可能で働きやすい職場環境づくり

顧問弁護士と契約し、危機管理対策の取りまとめと研修、ハラスメントがなく働きやすい職場環境の整備を進めている。

③ 人材確保・人材育成の取り組み

ハローワーク、職員からの紹介など、効果的かつ低コストの人材確保を目指した採用を進めている。また、職員の意向と能力に応じた任用と処遇を受けられるようキャリアパスの運用を開始した。

令和5年度 観成園事業報告

観成園は長期入所定員110人、短期入所定員10人の全室個室ユニット型の特別養護老人ホームであり、「安心・笑顔・その人らしさ」を理念とした介護事業を進めています。

(1) 利用状況

長期入所の稼働率(定員に対する入所者数の割合)は96.1%(前年度96.4%)、短期入所は90.0%(前年度90.8%)といずれも前年度実績を下回りました。園内で新型コロナウイルス感染症が発生したことにより入所の手控えがあり依然として厳しい状況が続きました。平均介護度については3.5と前年度に比べ0.1下がりました。

(2) 収支状況

収入面では、総収入額が5億9,231万円、前年度比34万円、0.1%の増となりました。平均介護度の低下や稼働率がコロナ禍前の水準には依然として戻らず、予定していた介護保険事業収入を下回る結果となりました。

支出面では、総支出額は6億203万円で、前年度比52万円、0.1%の減となりました。

主な支出について、前年度に比べ、水道光熱費65万円の減、人材紹介会社手数料76万円増、シルバー人材センター等への委託費150万円増となりました。投資的な部分では、大型洗濯機を更新しました。

人件費は、職員数が増加したことや令和5年度からの新給与基準実施により前年度比1.3%の増、人件費率は前年度と同率で66.4%でした。

以上の結果、収支全体では当期資金収支差額で972万円余の赤字決算となりました。

今後も健全で持続可能な施設運営に向けた経営努力を続けるとともに、入居者が安心して家庭生活の延長線上の暮らしができるよう質の高い介護サービスの提供に努めて参ります。

令和5年度フラワーハイツ事業報告

フラワーハイツは、介護保険法の中で在宅復帰・在宅療養支援施設として位置付けられ、地域包括ケアシステムの中核施設としての機能求められています。多職種の専門職が在籍しているのが施設の特徴となっておりその特性を活かしてご利用者の支援を行ってきました。令和5年5月には、感染症区分の変更が行われ新型コロナ感染症は5類変更になりました。区分が変更になったとはいえ、新型コロナ自体はなくなったわけではなく、高齢者施設では以前とほぼ同じような対応が求められてきました。このような中でも流行下でとられてきた行事、面会、施設内の業務などの制限を少しずつ解除し以前と同じような状態への移行に取り組んできました。

(1) 利用状況

利用状況におきましては、令和5年度2回のクラスターの発生があり入退所の制限、感染対策、蔓延防止には留意を図り早期の終息に努めました。また、地域で感染者が増加した時期には在宅系のサービスの利用控えが見られました。最終的な利用者数の増減は、令和4年度比で入所3.7%の減、短期入所17.7%増、通所リハビリ5%減、訪問リハビリ7.1%減、居宅介護支援事業18.1%の増となりました。

(2) 収支状況

事業活動収入は、5億9700万円、令和4年度比2.2%減となっています。主な原因としては、感染予防対策、コロナクラスターの影響、関連補助金の減少となります。事業活動支出としては人件費2.1%の増の4億3千万円、修繕費は2.8倍の480万円、手数料（人材紹介手数料）3倍の976万となっています。他の支出としては、設備、機器の更新が380万円となっています。事業活動支出は1.7%増の6億700万円となりました。収益増、経緯費削減に努めてきましたが結果として赤字決算となりました。

令和6年度の事業については介護報酬が、プラス1.59%の改訂となったことを受けて重点となった業務へのシフトに取り組めます。利用者の数的管理、コンサルの助言により利用者増を図り収益の確保を第1の目標に挙げ、老朽化する建物、設備の更新修理の財源を確保、人材の確保定着を図り安定した経営に努めます。また、老健施設としての機能役割りを果たせるように取り組んでいきます。

令和5年度 順天寮事業報告

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、令和5年度は4つの重点項目についてプロジェクトチームを立ち上げ、対応してきました。

(1) 改築プロジェクト

- ① 困窮者支援、障害者支援の複合経営（付帯事業）の検討
- ② 他法人の救護施設等の見学視察
- ③ 資金計画についての検討

(2) 人材育成プロジェクト

- ① 職員を育成できる環境（育成プログラム）の整備を行う
- ② 人材定着の取組み
- ③ 実習、インターンシップ受け入れの強化

(3) 情報システム運用プロジェクト

- ① 記録支援・個別支援計画システムへのPCシステム移行

(4) 日中活動プロジェクト

- ① 自律支援プログラムの充実を図る
- ② 心身機能維持のプログラムの充実を図る
- ③ 余暇・リラクゼーションプログラムの充実を図る

利用状況については、年間平均利用者数 64.9 人、利用率 108%と昨年対比 2.2%増となっています。入退所の特徴としては高齢で長期入所の方の死亡や病院・介護施設への施設替えが多く、入所では、8050問題による生活困窮に至ったケース、精神障害による自立生活困難が多い傾向であります。

収支状況については、事業活動収益 27,600 万円余、昨年度比 105%となり、今年度も 500 万円の施設整備積立金を行ったうえで、1,147 万円の当期資金収支差額を計上することができました。

令和6年度も引き続き順天寮スローガン「利用者さんの幸せとは？ 共に考え、共に歩もう！」を掲げ、4つのプロジェクトを存続しながら、改築の基本計画策定と人材育成（業務の効率化と生産性の向上）に重点を置いて組織・施設の機能強化を図りながら、地域福祉の向上に努めてまいります。

令和5年度 指定共同生活援助事業所南天 事業報告

グループホーム事業は、救護施設順天寮の地域移行事業として、日中は主に順天寮の通所事業を利用し、夜間はアパートタイプの個室で居住し共有スペースで世話人が作った夕食を提供している障害福祉サービスとなります。平成29年8月より定員4名の「南天」から開始し、令和2年度に「ハレルヤ」を開所して現在2棟7名定員体制で運営しています。

(1) 利用状況

昨年の利用者が1年を通して、健康状態にお変わりなく7名の方が継続利用をされております。年度途中で、県の指導もあり実際の利用者数に定員変更をおこない令和5年12月から8名から7名に変更となりました。

(2) 収支状況

収入としましては、年間23日の空所と身体拘束廃止未実施減算の減収もあり障害サービス給付費のみでの前年度比は99%にとどまりましたが、価格高騰対策支援金等を含めると事業収入は、103%の伸びとなりました。

支出としましては、物価高もあり給食費、日用品費の増加、グループホームの契約更新後の賃料の値上げ、住環境整備としまして寒さ対策に内窓設置工事をおこない、補助金使用後の一部負担金に28万円を支出計上しました。

令和5年度の収支状況としましては、当期資金収支差額は前年比24%増の1,541,765円の黒字を計上できました。

世話人会議を定期的に行い、研修の実施や意見交換を図りながら、より良いサービスが継続できるように取り組んでおります。職員の高齢化が進んでいましたが、40歳代の世話人が入職するなど地域福祉や障害福祉で貢献したい方々もいることから、引き続き幅広い年代の人材の確保と定着に努めてまいります。

障害福祉サービスや困窮者の地域移行支援に関して、他事業者との連携や、地域ニーズの把握を行いながら、将来的には独立採算で事業が成立できるよう模索を続けてまいります。

R5 年度 伊南訪問看護ステーション事業報告

伊南訪問看護ステーションは「生きる喜びをチーム力で支える」をミッションとし、在宅を訪問し看護を提供する「訪問看護」、在宅サービスのマネジメントを行う「居宅介護支援」、医療的依存度の高い障害児者や高齢者の通う「ナーシングデイ」の 3 事業を展開しています。

(1)利用者状況

訪問看護は R5年度年間訪問件数 9,497 件となり、R4年度比 4.5%増。コロナが 5 類となりキャンセルが減ったためと考えています。

しかし医療保険、看取りの件数は減少しており、医療型有料老人ホームアクアの利用定着と、前澤クリニックの入院終了に伴い前澤病院からの在宅看取り依頼が減少したためと考えます。この数字が低下すると加算料金の減少につながります。

居宅介護支援は、給付件数 R4年度比 1%の減とほぼ変化はありません。

ナーシングデイは、稼働率を徐々に上げており、月平均稼働率 78.4%と R4 年度の 49.8%を大きく上回っています。R5、3月の稼働率は 95.8%まで上昇しています。受け入れ態勢が整備されたことと知名度の上昇、放課後デイ利用時に入浴サービスが利用できる点が利用数の増加につながっていると考えます。地域の施設では受け入れ困難な医療依存度の高い利用者が利用しています。

(2)収支状況

総収入額 1 億3564万円 、前年度比1290万円増、9%増。

総支出額1億2762万円 、前年度比330万減、2%減で定年退職者が 2 人いたためです。

収支全体では当期資金収支差額で802万円の黒字。

今後、看護師を充足することで収入の増加が見込めます。また人手不足は新規受け入れのお断りや、1 日の訪問件数の多さによる看護の質の低下にもつながります。職場環境の改善をはかり、離職予防や新たな看護師の就労に力を入れていきたいと思ひます。人員確保は現在 SNS が主流となつてきており、HP の充実を図りたいと思ひておひます。